

薬剤部

山崎邦夫

大阪医療センターの運営方針に基づき、薬剤科は正確な調剤、良質な医薬品供給、医薬品の適正使用の推進、医薬品の安全管理、病棟における薬物療法の有効性・安全性の向上に資する業務、薬剤管理指導業務、チーム医療への主体的関与（HIV 感染症患者への服薬支援、がんサポートチーム、NST、ICT、外来化学療法室でのがん薬物療法支援など）を実践することで、良質かつ適正な医療の提供に貢献することを基本方針としている。また、各種専門薬剤師の養成のもと専門認定施設（がん、HIV、NST、小児）としての研修受け入れ体制を確立している。

1. 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟担当薬剤師を専任化し、病棟薬剤業務実施加算の要件である病棟での必須業務時間（20時間/週）を確保しつつ、薬物療法の質の向上と医療安全の確保を主な目的として、次の業務を行っている。

1) 無菌調製業務

注射処方投与量、投与速度、配合変化などの確認を行うとともに、病棟に設置したクリーンベンチ内で注射薬を無菌調製している。（3,873 件/月）

2) 入院時の持参薬確認

入院時の持参薬について、複数薬剤師による二重の確認と正確な報告、服用状況の確認を行うことにより、医療安全の向上と持参薬服用の適正化に取り組んでいる。

3) 処方提案・支援

主治医に対して行っている主な提案・支援は、持参薬の代替薬を提案、処方設計支援、支持療法薬の提案、薬物血中濃度に基づいた処方設計である。

4) 医薬品情報の提供・相談応需

各カンファレンスで採用医薬品情報の提供や医薬品に係る医療スタッフからの照会や相談に対して情報提供に努めている。

5) 薬剤管理指導業務

医薬品薬物療法に係る様々な情報を収集・分析し、その内容から効果の評価、副作用のモニタリングを実施する事により、適正使用と副作用の発現防止が主な業務である。また、緩和ケアチーム、ICT、NST などのチームと連携して、薬学的アプローチを積極的に実施している。

2. 外来服薬支援指導

抗 HIV 薬の服薬には職種間の連携、HIV 感染症の専門的知識が必須であることから、HIV 感染症専門薬剤師 2 名（専従）を配置し、感染症科外来に隣接した「お薬の相談室」に薬剤師が常駐することで患者サービスの向上や医療スタッフ間の連携強化を図るとともに HIV 感染症患者対象の緩和ケアチーム（PWA：（people with AIDS）サポートチーム）にも参画する事により、長期的な支援体制を構築している。外来における指導件数は 288 件/月であった。また、外来化学療法室では、治療計画、副作用などについて指導を実施し、がん薬物療法の安全と質の向上に努めている。薬剤師による外来がん薬物療法患者への指導件数は 64 件/月であった。主治医からの依頼によるがん患者指導管理料請求件数は 9 件/月であった。

3. 医薬品情報管理（収集・整理・評価・提供）

医薬品情報の適正な管理と供給を行うために専任スタッフを配置し、医療スタッフからの相談応需や医薬品情報の発信を行っている。また、薬事委員会決定事項、厚生労働省医薬品・医療機器安全性情報、院内 Q&A、トピックスなどを掲載した院内医薬品情報誌「Drug Information Service (DIS)」を2ヶ月毎に発行している。院内における医薬品に係わる情報を集積し、医療安全推進室や関係委員会と連携して院内への周知を図るとともに厚生労働省への医薬品・医療機器副作用報告も積極的に行っている。(2件/月)

4. 治験薬管理業務

治験薬管理者（薬剤部長）の管理責任の下、GCPを遵守した治験薬の適切な保管、管理、調剤を行うと共に、抗がん剤や注射薬の無菌調製などを行い、被験者への治験薬投与が円滑かつ安全に行われるよう努めている。更には、受託研究審査委員会委員として院内における治験・臨床研究の適切な実施の推進に協力している。

5. 専門薬剤師の育成・研修受入体制の推進

日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設、日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設、日本病院薬剤師会小児薬物療法認定薬剤師研修施設の認定を受けている。また、部員や院内職員を対象とした院内研修会の参画に積極的に取り組んでいる。

今年度の薬学生長期実務実習生は32名を受け入れ薬学教育にも寄与している。

6. 臨床研究業績

論文投稿、学会発表等は以下の通りである。

今年度は、国内外学会誌に論文、国際学会に演題を報告した。

【2015年度 研究発表業績】

A-0

Yagura H, Watanabe D, Ashida M, Kushida H, Hirota K, Ikuma M, Ogawa Y, Yajima K, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T: Correlation between UGT1A1 polymorphisms and raltegravir plasma trough concentrations in Japanese HIV-1-infected patients. J Infect Chemother.

2015;21(10):713-717、2015年7月6日

A-3

櫛田宏幸、富島公介、矢倉裕輝、吉野宗宏、廣田和之、伊熊素子、小川吉彦、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院 HIV 感染症症例におけるニューモシスチス肺炎に対するアトバコンの使用状況「日本エイズ学会誌」17：P.101-105、2015年5月30日

中蔵伊知郎、坂倉広大、小川吉彦、上野裕之、中多 泉：Meropenem 投与症例における肝・腎機能障害発現への高用量投与が及ぼす影響と発現要因に関する後方視的調査「日本化学療法学会雑誌」(63)：P.553-559、2015年11月10日

A-6

矢倉裕輝：医薬品の適正使用「抗 HIV 薬」Rp（レシピ）、14(3)：P.30-45、南山堂、2015 年 7 月 1 日

矢倉裕輝：Evidence Update 2016 最新の薬物治療のエビデンスを付加的に利用する抗ウイルス薬「薬局」(67)：P.118-120、南山堂、2016 年 1 月 5 日

中蔵伊知郎：徹底理解！消毒薬 医療関連感染対策を有効に実現するためにアウトブレイク発生!?! 何の消毒薬をどう使う?! カルバペネム耐性腸内細菌科細菌「薬局」(67)：P.83-86、南山堂、2016 年 2 月 5 日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Ashida M, Kushida H, Tomishima K, Hirota K, Ikuma M, Yajima K, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Yoshino M, Shirasaka T：UGT1A1*6 Polymorphisms are Predictive of High Plasma Concentrations of Dolutegravir in Japanese Individuals. 2015 World STI & HIV Congress, Brisbane, Australia, 2015 年 9 月 13 日

B-4

中蔵伊知郎、坂倉広大：正常腎機能患者における Meropenem 投与時の肝・腎機能所見への影響に関する後方視的調査。第 63 回日本化学療法学会総会、東京、2015 年 6 月 5 日

坂倉広大、中蔵伊知郎、上野裕之、中多 泉：チゲサイクリンにより皮膚障害を呈した一例。第 63 回日本化学療法学会総会、東京、2015 年 6 月 5 日

垣内万依、榎原克也、上野裕之、田中希世、田口裕紀子、八十島宏行、水谷麻紀子、増田絃子、増田慎三：HER2 陽性進行・再発乳がんにおけるトラスツズマブ エムタンシンの使用経験～安全性の観点から～。第 23 回日本乳癌学会学術総会、東京、2015 年 7 月 3 日

中蔵伊知郎、坂倉広大、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：カルバペネム系抗菌薬の適正使用の推進と採用薬の整理に伴う緑膿菌に対する感受性率の変化。第 69 回国立病院総合医学会、札幌、2015 年 10 月 2 日

高橋政成、富島公介、榎田宏幸、矢倉裕輝、土井敏行、上野裕之、上平朝子、白阪琢磨、山崎邦夫：大阪医療センターにおける抗 HIV 薬の処方動向。第 69 回国立病院総合医学会、札幌、2015 年 10 月 2 日

朴井三矢、梅原玲緒奈、奥田直之、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫、北村良雄、志馬伸朗：当院における抗 MRSA 薬の調査。第 68 回国立病院総合医学会、札幌、2015 年 10 月 3 日

中蔵伊知郎、坂倉広大、廣田和之、上平朝子、多和昭雄、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：抗菌薬適正使用の推進とメタロ β ラクターマーゼ産生菌の検出数との関連性についての後方視的検討。第 25 回日本医療薬学会年会、横浜、2015 年 11 月 22 日

坂倉広大、中蔵伊知郎、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：特殊病態を除いた成人症例におけるバンコマイシン血中濃度至適測定間隔の検討。第25回日本医療薬学会年会、横浜、2015年11月22日

庄野裕志、中村さやか、宮城和代、宮部貴識、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：トリフルリジン／チピラシル単剤療法の腎機能による安全性の検討。第25回日本医療薬学会年会、横浜、2015年11月22日

奥田直之、梅原玲緒奈、朴井三矢、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：人工股関節全置換術におけるエドキサバン低用量投与の有効性および安全性の検討。第25回日本医療薬学会年会、横浜、2015年11月22日

榎田宏幸、富島公介、矢倉裕輝、吉野宗宏、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：キードラッグがテノホビルの血中濃度に及ぼす影響。第28回日本エイズ学会学術集会、東京、2015年11月30日

矢倉裕輝、榎田宏幸、富島公介、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：日本人 HIV-1 感染症患者における1日1回ドルテグラビル投与時の血漿トラフ濃度に関する検討。第29回日本エイズ学会学術集会、東京、2015年11月30日

富島公介、榎田宏幸、矢倉裕輝、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：HIV 感染症患者におけるバルガンシクロビル投与時の臨床検査値の変化に関する調査。第29回日本エイズ学会学術集会、東京、2015年11月30日

南 沙甫、垣内万依、中村さやか、庄野裕志、宮部貴識、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：当院乳腺外科におけるペグフィルグラスチムの使用経験と治療効果への影響。日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2016、鹿児島、2016年3月12日

垣内万依、南 沙甫、中村さやか、庄野裕志、朴井三矢、宮部貴識、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：術前化学療法におけるアルブミン懸濁型パクリタキセルの治療強度に影響を及ぼす要因についての検討。日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2016、鹿児島、2016年3月13日

B-5

矢倉裕輝：抗 HIV 療法の現状と薬剤師の役割・介入のポイント～チーム医療の中でいかに職能を発揮するか～。日本病院薬剤師会東海ブロック日本薬学会東海支部合同学術大会 2015、名古屋、2015年11月1日

B-6

矢倉裕輝、渡邊 大、蘆田美紗、榎田宏幸、富島公介、廣田和之、伊熊素子、矢嶋敬史郎、笠井大介、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨：日本人 HIV-1 感染症患者における

UGT1A1 遺伝子多型とラルテグラビル血漿トラフ濃度の関連。第 29 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2015 年 6 月 6 日

大原菜穂、中筋早織、今西嘉生里、中蔵伊知郎、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：当院での Levetiracetam の使用状況。第 37 回日本病院薬剤師会近畿学術大会、神戸、2016 年 1 月 24 日

中内崇夫、榎田宏幸、富島公介、矢倉裕輝、土井敏行、上野裕之、山崎邦夫：ドルテグラビルとリルピピリン併用時の腎機能検査値への影響。近畿国立病院薬剤師会学術集会、大阪、2016 年 3 月 5 日

B-7

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の最近の動向と各薬剤の注意点。第 20 回東海 HIV 感染症研究会、名古屋、2015 年 6 月 27 日

矢倉裕輝：DAA 製剤および遺伝子多型が RAL の体内動態に及ぼす影響。第 8 回近畿 HIV FRONTIER 研究会、2015 年 7 月 25 日

矢倉裕輝：UGT1A1 遺伝子多型が抗 HIV 薬の薬物動態に及ぼす影響。探索医療薬物研究会 法円坂地域医療フォーラム合同シンポジウム、大阪、2015 年 9 月 28 日

中蔵伊知郎：糖尿病患者と感染症。マネジメント研究会、大阪、2015 年 11 月 7 日

榎田宏幸：B 型肝炎合併透析症例において TDF を含むレジメンを選択した症例。関西 HIV 臨床カンファレンス薬剤師部会、大阪、2016 年 2 月 7 日

B-8

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の最近の話題。第 7 回大阪抗 HIV 薬勉強会。大阪、2015 年 4 月 11 日

榎田宏幸：ART と NTM 治療薬の相互作用が及ぼす影響を考慮した 1 例。第 7 回大阪抗 HIV 薬勉強会、大阪、2015 年 4 月 11 日

矢倉裕輝：抗 HIV 療法の現状について。第 1 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2015 年 5 月 16 日

富島公介：抗 HIV 薬基本講座“Key Drug”。第 1 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2015 年 5 月 16 日

矢倉裕輝：当院における STR 製剤の処方状況。Meet the Expert in Osaka、大阪、2015 年 8 月 22 日

東さやか：外来がん薬物療法に係る薬剤師の役割～薬学的なマネジメントとモニターリング～。中央区東・南薬剤師研修会「外来がん薬物療法連携セミナー」、大阪、2015 年 8 月 27 日

櫛田宏幸：HIV 感染症患者への服薬指導と保険薬局との連携について。第 6 回沖縄抗 HIV 勉強会、沖縄、2015 年 9 月 12 日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の最近の動向と各薬剤の注意点。第 8 回大阪抗 HIV 薬勉強会、大阪、2015 年 9 月 26 日

冨島公介：合併症を考慮した薬剤選択～ICU での ART。第 8 回大阪抗 HIV 薬勉強会、大阪、2015 年 9 月 26 日

矢倉裕輝：薬剤師の役割と服薬指導。平成 27 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2015 年 9 月 28 日

矢倉裕輝：抗 HIV 薬の処方現状と TDM について。第 2 回抗 HIV 療法ブラッシュアップセミナー、大阪、2015 年 10 月 24 日

矢倉裕輝：服薬支援の実際～服薬スケジュールの組み方・服薬継続への関わり～。平成 27 年度 HIV/AIDS 看護研修会、大阪、2015 年 11 月 9 日

矢倉裕輝：当院における STR 製剤の処方状況。HIV Web Conference、大阪、平成 27 年 11 月 26 日